

地域情報

(一社) 熊本県野菜振興協会宇城支部

病害虫を「出さない」ために

トマト・ミニトマト、メロン、キュウリ等の施設栽培が盛んな宇城地域では、令和3年産トマト・ミニトマトにおいて、タバココナジラミの媒介するトマト黄化葉巻病が多発し問題となりました。

そこで、5月中旬に生産者、JA、市町、県を参集した病害虫対策会議を開催し、地域の現状や課題の協議を通して、令和4年産の被害低減に向けた防除意識の醸成や取組計画の策定を行いました。

ウイルス病の防除対策は、微小害虫を「入れない」「増やさない」「出さない」ことが重要です。今年度は、栽培終了後にコナジラミを外に「出さない」対策として、ハウスを閉め切り、作物や雑草を枯らして殺虫する「密閉処理」を徹底するため、関係機関でハウスを巡回して適正な処理を確認・指導しました。

6月上旬と下旬の2回、栽培終了しているメロンやトマト類を対象に巡回したところ、ほとんどの農家で適正に処理されていましたが、中には雑草が残っているほ場もありましたので、処理状況確認票を掲示するとともに啓発チラシを配付して密閉処理の徹底を呼びかけました。

今後、7月にはキュウリのハウスを巡回し、広く対策を周知する予定です。また、育苗や定植時、栽培期間中における農薬のローテーション防除等についても指導していきます。



適正な密閉処理を生産者に説明



各ハウスに処理状況確認票を掲示